

黒潮町立南部保育所「耐震診断結果」の公表

黒潮町では、昭和56年以前の基準で建築された南部保育所について耐震診断を行い、必要なら耐震化を図ることにしています。

平成21年度に耐震診断（第2次診断）を行った結果、南部保育所は耐震基準を満たし

ていましたので、耐震補強工事は行いません。また、他の保育所については、昭和56年6月以後の新基準での建築のため、同じく耐震化は行いません。

黒潮町立南部保育所「耐震診断結果」

(平成22年4月現在)

保育所名	園		舎	
	述べ床面積(m ²)	種別	第2次診断	
			Is値	CT・SD値
南部保育所	540.45	R1	1.24	0.80
大方くじら保育所	875.45	R1	新基準による施設	
大方中央保育所	1,775.52	S1	新基準による施設	
佐賀保育所	1,281.32	S1	新基準による施設	

※耐震化の必要な建物とは、昭和56年5月末までに建築確認を受けて着工した施設が対象です。したがって、昭和56年6月以降の新基準に基づき、建築確認を受けて着工した施設については、耐震化の対象外とされています。(表の内、「新基準による施設」と明記されている施設)



【用語説明】

- 「種別」のうち、「R」は鉄筋コンクリート造、「S」は鉄骨造の施設を表します。また、それぞれの数字は、階数(R1であれば、鉄筋コンクリート造平屋建て)を表します。
- 「第2次診断」とは、柱・壁のコンクリート断面積に加え、配筋量から診断するもので、柱、壁、コンクリート強度、鉄筋量から建物の強さと粘りを推定し、梁の耐力が充分と仮定し、柱、壁から強度指数を計算し耐震性能を求めます。したがって、現地で亀裂の把握やコアサンプルの採取を行い、強度試験および中性化の状況について診断します。
- 「Is値」とは、構造耐震指標といい、 $E_o \times SD \times T$ の公式により計算されます。(E_o:保有性能基本指標 SD:形状指標 T:経年指標)地震の衝動および衝撃に対して倒壊または崩壊する危険性を表すもので、その数値が大きいほど地震に強い建物といえます。
- 「CT・SD値」とは、累積強度と建物形状により地震による水平方向の力に対して建物が対応する強さを表す数値で、Is値が高くてもこの値が低い場合は安全としない目安です。保育所などの場合、Is値0.7以上かつCT・SD値0.3以上を倒壊または崩壊する危険性が低いとしています。

お知らせ

保育料決定における年齢区分の変更について

黒潮町の保育料は3歳未満児と3歳以上児の2つの年齢区分にわかれています。

その年齢区分を平成21年度までは、保育所へ入所した月の初日の年齢で保育料を決定していましたが、平成22年度からは、年度の初日の前日の年齢区分に変更します。

これは、学校教育法による小学校の就学期間にあわせたもので、同じ学年になる児童は、入所時期を問わず同じ年齢区分の保育料を適用するためです。

例えば、年度途中で3歳になり翌月保育所に入所した場合、これまでは3歳以上児の年齢区分(入所した月の初日の年齢)としていましたが、平成22年度からは、3歳未満児の年齢区分(年度の初日の前日の年齢区分)となります。詳しくは、左記までお問い合わせください。

○お問い合わせ

本庁 健康福祉課 福祉係

☎ 43-2116(直通)

平成21年度 電源立地地域対策交付金事業

電源立地地域対策交付金は、発電用施設のある地域で行われる公共施設整備や住民福祉の向上のために行う事業に対して交付金を交付することにより、発電用施設の設置に係る地元の理解促進などを図ることを目的としています。

平成21年度の電源立地地域対策交付金事業(佐賀地域が対象)については、保育所運営に利用させていただきました。

